

展覧会への入口講座 Vol.28 千代田区内ミュージアム連携企画

## 没後90年記念 岸田劉生展 こんなところがスゴイ！

2019年は日本の近代美術の歴史において独創的な絵画の道を歩んだ孤高の存在、岸田劉生（1891-1929）の没後90年にあたります。これを記念して、東京ステーションギャラリーでは8月31日（土）より「没後90年記念 岸田劉生展」を開催します。劉生の肖像画は娘を描く麗子像が有名ですが、自画像、妻の葵（しげる）、友人を描いた作品も多く存在します。また、重要文化財《道路と土手と塀（切通之写生）》は代々木にある実際の坂を題材にしましたが、他にも日比谷や銀座など色々な東京の風景を描いています。

日本の近代美術の歴史は、フランスの近代美術を追従した歴史であったとされますが、岸田劉生はただひとり、初期から晩年に至るまで、自己の価値判断によって、自己の歩む道を選択し、自己の絵画を展開し、その姿勢、活動は、同時代の若い画家たちへも強い影響を与えました。

本講演会では展覧会の流れに沿って、代表作品の生まれた背景や彼の人生などを、劉生の日記、知人による文章、写真などを引用しながら、その魅力を紹介します。



《麗子肖像（麗子五歳之像）》

1918年10月8日 東京国立近代美術館

### 講師 田中 晴子（東京ステーションギャラリー 学芸室長）

1991年に東武美術館の学芸員となるが、2001年3月に閉館。同年4月より東日本鉄道文化財団を運営母体とする東京ステーションギャラリーの学芸員に転職する。学芸課長を経て現職。2012年の東京ステーションギャラリー再開館後は、「生誕120年 木村莊八」（2013年）、「月映」（2014年）、「動き出す！ 絵画 パール北山の夢」（2016年）、おもに近代日本美術の展覧会を中心に担当し、サブ担当の「千代田区×東京ステーションギャラリー 夢二繚乱」展では図録にも執筆。また、近年は「コレクションのドア、開きます」（2017年）や、「横山華山」展（2018年）を担当。

### 開催概要

- 日時：2019年8月30日（金）19:00～20:30（18:30開場）
- 会場：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール（大ホール）
- 定員：200名（事前申込順、定員に達し次第締切）
- 参加費：1000円（千代田区民500円 ※住所が確認できるものをお持ちください。）
- 申込方法：ホームページの申込フォーム、電話（03-3502-3340）、来館（1階受付）いずれかにて、
  - ① 講座名、② お名前（ふりがな）、③ 電話番号をご連絡ください。

### 〈 お問い合わせ先 〉

日比谷図書文化館 広報担当：並木 namiki-yuri@shopro.co.jp、中村 nakamura-shoko@shopro.co.jp  
〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園 1-4 TEL：03-3502-3340 / FAX：03-3502-3341  
ホームページ：https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/